



発行日：平成 25 年 7 月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆矢作川流域圏懇談会の第 10 回川部会 WG を開催しました！

6 月 13 日に矢作川流域圏懇談会第 10 回川部会WGは、家下川流域の現地調査と、市民や学識経験者、行政などの方々が参集し、多くの議論がなされました。

日時：平成 25 年 6 月 13 日(金) 15:00～20:40

調査場所：家下川流域

会議場所：豊田市職員会館 2 階 第 1 会議室

参加者：19 名（事務局含む）

◆WGで議論した主な内容

【家下川の課題と解決策について】

- 家下川一承水溝一長池の関係の理想形を考える必要がある。そのために、各ポイントの水位の状況を確認することとした。
- 水源確保について、用水系統の運用や家下川本川の導水の可能性（物理的な高さ等）を確認できるとよい。
- 家下川合流点の段差解消について、矢板の一部の切り欠きにとどめている。昨年度WGで提案があったように、矢板をコンクリート等で固めず、モニタリングしながら、矢板裏の保護を検討していることの報告があり、その状況を確認した。

【川部会の活動の方向性について】

- 川部会WGで提言したものが、管理者に伝わっていることがアクションの一つである。
- 川部会WGの活動を積極的にPRし、エビデンスになるようにしてほしい。
- 川部会WGでは、国・県・市で実施する事業があれば、議論し提案できる場としたい。3モデルの対象エリアにとらわれず、提案があればレスポンスできる体制としたい。



長池での意見交換の様子



長池一承水溝の段差



承水溝前での意見交換の様子



承水溝一矢作川の合流箇所



家下川合流点段差改善箇所



家下川合流点の導流堤

第 1 部：家下川現地調査



(1) 柳川瀬公園付近（長池一承水溝一家下川）

矢作川水族館の阿部氏より、長池の状況について説明を伺いました。

- 長池に水が供給されると、水位は例年より高くなり、水質はかなり改善される。
- 長池には流れがほとんどないため、魚の産卵地にはなっていない。
- 長池一承水溝一家下川の平常時の水位が異なることが、問題である。

【意見交換】

（・意見 ▶ 回答）

- ・家下川一承水溝一長池の理想形を考えておく必要がある。（光岡）
- ・用水系統の末端に近いので、運用で水源を確保できる可能性はある。家下川などから水源確保可能か、物理的な高さについて、確認することができればよい。水利権について、今後整理が必要である。（鷺見）
- ・水源となる水は余分があれば流してほしく、常時必要なものではない。（阿部）
- ・長池にどの程度の流量があるとよいか、わかるとよい（鷺見）
- ・承水溝のポンプ場付近は、公園の砂が流れ込み陸地化しそうな状況である。ポンプ改修と合わせて、浚渫できる可能性がある。（阿部）
- ・承水溝と家下川は、小トンネルでつながり流れがある。以前に、承水溝の水位を上げたときは、トンネル手前に角落としを入れて堰上げした。（阿部）

(2) 家下川合流点の段差改善箇所

国土交通省豊橋河川事務所の新高副所長より、家下川合流点の段差改善について説明を伺いました。

- 家下川合流点の段差解消について、矢板の一部の切り欠きにとどめている。
- 昨年度WGで提案があったように、矢板をコンクリート等で固めず、モニタリングしながら、矢板裏の保護（袋詰め玉石など）を検討している。

(3) 県・市管理境界付近

(・意見 ▶ 回答)

- ・明治用水の耐震改修に合わせて、明治用水下の暗渠部の断面を大きく改修する予定であり、用水管理者と調整を始めている状況である。
- ・明治用水下のトンネルは、歴史遺産として保存してほしいという話がある。



県・市管理境界上流の様子

第2部：意見交換



●出席者による主な意見交換内容は、以下のとおりです。

(・意見 ▶ 回答)

- ・川部会の3ヶ年、あるいは当面の1年についていかがか。(鷺見)
- ・川部会としては、何をアクションと捉えて活動するか。(光岡)
 - ▶ WGで提言したものが、管理者に伝わっていることがアクションの一つである。(鷺見)
- ・白浜工区の事業のように、国、県、市の事業に対して提案していくことが成果とできるとよい。(内田)
 - ▶ 懇談会は元々、整備計画で位置づけて開催しているので、本来の趣旨に則したものと言える。(新高)
 - ▶ それを積極的にPRし、エビデンスになるよう明示してほしい。国、県、市で実施する事業としてあれば提示いただき、議論し提案する場としたい。(鷺見)
- ・安永川や渡合地区の災害復旧事業が、懇談会を通さずに行われたことが、今後の課題である。(光岡)
- ・モデルというフレームワークをどうするか。本来の家下川モデルや本川モデルからはずれるエリアでも同様に、議論の対象にできないか。(鷺見)
 - ▶ 現場としては、工事のスケジュールもあるので、早急に皆さんとお話したいと思っている事案がある。(小林)
 - ▶ 事務所で今年度やろうとしている事業については、WGの中でご説明したい。(新高)
 - ▶ 家下川の場合、水位を上げようとした場合に、どの程度の水位がよいか、検討できればよい。(阿部)
 - ▶ 安城市では、多自然川づくりの事業を毎年少しずつ進めている。ここで議論することが問題なければ、提示して議論いただきたい事案がある。(早川)
- ・WGは、3モデルの対象エリアにとらわれず、自由度のある中でやっていきたい。ただし、関わり方は、これまで検討してきたモデルのように取り組むことはできないが、提案があればレスポンスできる体制としたい。(鷺見)
- ・生き物に配慮するといっても、決定的な工法がないのが現状である。個々の対応も必要だが、基本を考えておく必要もある。(本守)
- ・まず、今できる工法がどういうものがあるか考える必要がある。(鷺見)

今後の川部会 WG の予定



■第11回(本川モデル)

日時：平成25年7月12日(金) 13:00~19:30

○本川現地視察：瀬・淵、合流箇所

○意見交換

場所：豊田市職員会館2階 第1会議室

■第12回(家下川モデル)

日時：平成25年8月26日(月) 15:00~18:00

場所：未定



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 西原、専門職 後藤

TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

